坂戸市立三芳野小学校

様式3　まとめ（自己評価および学校関係者評価）

坂戸市学校評価システム

令和4年度　　学校評価
自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立三芳野小学校
実施日	令和5年1月20日

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価　A：よくできている　　B：概ねできている　　C：あまりできていない　　D：できていない

○「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	B	成果①　コロナ禍の中、お米作りなど体験活動を行えた。地域人材や地域資源の活用など組織的に取り組んだ。 成果②　体育部を中心に運動好きな子供を育成するための環境づくりを積極的に取り組んだ。 課題①　人手不足の中、職員の負担が偏っている。	B	・本校は長年にわたり、米作りを通し、食の問題及び環境問題に取り組んでいることが評価できる。 ・お米作り体験や学校の敷地内での野菜作りなど、地域の特色に合わせた取組みをされていると感じた。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	B	成果　初期対応の大切さを共有できた。養護教諭や生徒指導主任と連携し、組織的に対応した。 課題　人手不足の中、職員の負担が増えないよう、チームとして諸問題に対応していく。	B	・管理職を司令塔としてチームで素早い対応ができている。 ・コロナ対策が適切に行われていた。 ・情報の共有と組織的な対応が重要。また、再発防止の観点からも「事後検証」を実施し、問題の共有化を図るとよいと思う。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。（共通項目）	C	成果①　退勤時刻や時間外勤務を集計ソフトで管理することで可視化ができている。 成果②　授業時数確保と、児童下校後の執務時間確保を目的に、教育課程の見直しを行った。 課題①　会議や研修の持ち方、業務の効率化に向けた取組みに課題が残る。教員の人員不足やコロナ対応、ICT整備等で、多忙感を感じている職員が多い。	B	・全国的に教員の方々の長時間労働が問題となっている状況と認識している。様々な取組みを実施していただいている状況にあると思うが、自己評価においても人員不足の指摘がある。厳しい状況であるが、地道な改善をお願いしたい。
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、児童生徒にわかりやすく、工夫した授業をしている。 （市共通項目）	B	成果　学校研究を中心に、組織的に授業改善を進められた。ICTを活用したり、学び合いの手法を取り入れたり工夫ができた。 体育科を中心に運動好きな児童の育成に向け、組織的に取り組めた。 課題　「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業展開モデルを確立させる。より組織的に研修が進められるよう研修の行い方についても改善を行う。	A	・埼玉県学力・学習状況調査の学習方略の報告を見ると、取組みは成果を上げている様子である。 ・授業参観で見る限りどの授業も大変質が高い。 ・体育授業研究会の一部を拝見した。児童が楽しく取り組むための工夫がなされており、子供たちが元気よく授業をうけていたことが印象的だった。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	B	成果　児童をほめる言葉や児童を生かす言葉がけをよく聞かれる。一人一人の児童に寄り添い、互いに学べる環境が道徳性を育くむ基盤となっている。今後も道徳教育を中心に、全ての教科・領域で豊かな心を育めるように工夫していく。 課題　現状として落ち着きのない児童も見られ、トラブルも少なくな い。教師の言葉がけや学級経営の工夫を基盤に道徳教育を 推進していく。	B	・机の並べ方、配置等に工夫がなされ、個に応じる授業がなされている。 ・個人を尊重しながら集団で行動する難しさがあると思うが、相手を思いやる心を大切にする学校であってほしいと思う。
	6	児童生徒は、落ち着いた態度で生活し、授業に取組んでいる。 （市共通項目）	B	成果　全体的に落ち着いている。配慮が必要な児童には担任が中心に粘り強く支援を行った。管理職、生徒指導主任、教育相談主任、相談員、支援員等協力して児童への支援を行った。 課題　支援が困難な児童がおり、校内体制の強化に加え、保護者 や関係諸機関と連携強化が課題である。	B	・町探検で当公民館を訪れた児童たちは、とてもしっかり挨拶や説明をしていた。礼儀正しい振る舞いや、真剣に授業に取り組む様子が拝見できた。後にお礼の手紙もいただき丁寧な対応だと感じた。 ・登下校時、上級生に見習っての所作の傾向あり。上級生の行動が大切と思われる。
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のために意欲的に取り組んでいる。 （市共通項目）	B	成果　倫理確立委員会を定期的に行っている。全教職員が自分事としてとらえ、教職員事故や不祥事根絶に向け、風通しの良 い職場づくりを推進する。	B	・倫理確立委員会を定期的に開催され、事故や不祥事の根絶に向け、取り組まれていることがうかがえる。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切にする態度で接している。	B	成果　校務支援ソフトを活用し、児童の日々の様子を職員で共有できている。全体的に見て、教師による温かい言葉がけができている。 課題　いつも大切に接していても、一言で児童が傷つくことがある。背後の状況などを把握するために、児童理解を進めていく。また、児童に対する言葉遣いや態度について日頃から教員間で声がけをしていく。	A	・ほとんどの教員で実行されていると思われる。 ・授業を拝見しても、とても丁寧な対応をされていると感じた。また、傾聴と受容により児童を伸ばす雰囲気づくりも工夫されていて、温かい雰囲気づくりがよくできていると感じた。
学習環境	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。	B	成果　管理職、特別支援コーディネーター・特別支援学級担任を中心に、より多くの教職員との連携が図れている。ケース会議が有効に機能している。	B	・対象児童に対し、手厚い対応ができていると思われる。
	10	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	B	成果①　教頭、安全主任を中心に安全点検等を計画的・継続的に実施し、修繕等が行われている。 成果②　体育部を中心に、運動場、遊具、体育教具の手入れが行き届いている。 課題①　施設自体が古いため、修繕が必要な場合が多い。限られた予算の中で優先順位を決めて、教育環境の整備に努める。	A	・安全点検を計画的かつ継続的に実施しているとのことで安心できると感じた。 ・トイレなどもとてもきれいになっていた。 ・桜の木の老木化が気になる。特に裏側2本は倒木の危険が感じられる。（照明灯支柱に寄りかかっている。）
家庭・地域との連携	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。 （市共通項目）	B	成果①　通常での 学校公開や行事が実施が難しい中、運動会や持久走大会、連合運動会を公開し、児童の活躍を保護者の方に観てもらうことができた。行事の精選や工夫は今後も続けている。 成果②　学校便り、マメール、ホームページなどを活用し、迅速に情報提供ができた。	B	・多様な手法で、情報提供が行われている。 ・防犯上の面も考慮が必要となるが、ICTの活用等も含め適切な情報提供をお願いしたい。
	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	B	成果　登下校の見守り隊や総合的な学習の時間の体験学習等、地域の方々との連携が図れている。児童の安心・安全が守られ、体験学習を通して児童の豊かな学びにつながり、教育活動の充実につながっている。 課題　コロナ禍での取組みの工夫。状況を見定めての感染予防策を講じる。	B	・登下校時の保護者、見守り隊、教職員等の安全見守りが見られ、大変よい。また、地域全体でパトロールに取り組んでいる。 ・児童の見守りや体験活動などに、地域の方々との連携を図りながら実施されている。学校が抱える課題解決に地域の方々の力を活用することもよいと思う。
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。 （市共通項目）	B	成果　小中連絡会で子供の実態や教育活動について共通理解を図り、連携に努めている。 課題　9年間を見据えた指導や教育課程の見直し。コロナ禍での連携の機会の持ち方（リモートなど）。	B	・小中一貫教育については、連絡会で共通理解を図っているとのことだが、世代間交流の観点も含め情報交換等をお願いしたい。